「いつも市民がど真ん中！」であるために

南島原市長
藤原米幸

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、すがすがしい新年をご家族おそろいでお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

日ごろから、市政に対して温かいご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年5月から市政を担当させていただき、早や7カ月が過ぎました。私は、お約束したとおり、『市民が主役』、『市民協働の市政』を政治理念に、公平・公正で市民の目線に立った市政を目指し、市政のかじ取りを行ってまいりました。

厳しい日本、南島原

現在の日本の状況は、厳しい財政状況、少子高齢化、本格的な人口減少に伴う諸問題など、複雑で、切実な問題に直面しています。

日本経済については、昨年前半は景気回復基調であったものが、後半は円高の急速な進行から、輸出産業は苦境に立たされており、高校・大学卒業見込み者の就職内定率は、過去最低レベルとなっています。

南島原市におきましても、市外への人口流出が続くなど、市を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。

いつも市民がど真ん中！

そのような中にあって、市民の皆さまの安全・安心な暮らしを実現するため、市の特性や恵まれた資源などを生かし、「南島原市に生まれてよかった」、「南島原市に住んでよかった」、「合併してよかった」と思えるようなまちづくりに全力で取り組んでいきます。そのためには、市民が主役の行政運営が不可欠です。

私は、市民一人ひとりが主人公となって市政に関わっていただき、皆さまの知恵と行動が結集したとき、おのずと南島原市は発展していくものと確信しております。

そして、私の役目は、市民の皆さまと一緒になって頑張るのはもちろんのこと、市民が思い切り頑張れるように支援すること、また、その環境をつくり上げることと考えています。

ふるさとＰＲ大使の島原翔南高校の生徒と（詳細19ページ）。

キーワードは、「元気」

そして、そのエネルギーの元となるもの。それは、「元気」であると考えています。『人が元気になる』、『産業が元気になる』、『まちが元気になる』そして『市役所が元気になる』の４つの視点から、それぞれが元気になる施策に取り組んでいきます。

スリムで俊敏な行政を目指して

地方分権、地方主権が叫ばれている現在、基礎自治体として質の高い行政サービスを持続していくためには、行財政改革の断行は避けて通れないものです。

そこで、次期行財政改革大綱と実施計画策定の取り組みを進め、南島原市の将来を見据えた戦略的な新しいまちづくりを進めるために、副市長の公募を実施しました。予想をはるかに超えた多くの方に南島原市のまちづくりを真剣に考えていただきました。

現在、民間人を含めた副市長選考委員会で、鋭意選考を行っているところです。素晴らしい人に副市長に就任いただけるものと期待をしています。

今年の南島原の主な施策

平成22年度補正予算の中で、教育環境の充実として市内小中学校並びに図書館の図書購入経費の増額を行ったほか、住環境の整備として住宅・店舗リフォーム資金補助の創設、企業誘致のための東京駐在員の設置費を計上しました。

また、市民皆さまを対象として行った市政懇談会や市議会の要望についても、可能な限り実現していく予定です。小学校3校のトイレの水洗化、市営住宅の修理、地域活性化や雇用創出のための事業や太陽光発電設備設置費補助の増額、子宮頸がん・小児肺炎球菌ワクチン接種費用の無料化に対しても、予算化しました。

すでに利用いただいている福祉タクシー利用券の継続に加え、乳幼児に対するヒブワクチン接種費用も今月から無料化し、市民に必要な施策の充実を図っています。

めまぐるしい社会情勢に対応できる市に

市を取り巻く環境は急激かつ大きく、しかも刻々と変化しています。こうした中で、山積する課題をクリアしていくことは簡単なことではありません。熟考を重ねながらも、スピード感を持って課題に取り組むことが必要ですが、そのためにも、職員、市民がこれまで以上に、一丸となって当たる必要がある、と考えています。

年頭にあたり、これまでの取り組みの一端を述べさせていただきましたが、今、南島原市は新しいステージへの第一歩を踏み出しました。この歩みを緩めないためにも市民の皆さまのいっそうのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

迎える年が、皆さまにとりまして、幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

噴火から20年。朝日を浴び、赤く染まる平成新山(布津町から)